

## ボランティア 被災地通信

# 「俺らにとってみんな神様だよ」

## Vol.10 東日本大震災1年 まだ必要な若い力



東日本大震災から1年がたった。これまで被災地に派遣した学生ボランティアは27陣を数え、その人数は延べ5000人を超える。学生らしい屈託のない笑顔が被災地を元気にしている。被災地で見る学生は男子も女子も少し大人びて見える。自分の意思で被災地に行くという構えからだろうか。もし街中で出会ったら、同一人物だけは信じがたいほどどこにでもいる普通の学生にしか見えない…。活動後に記された感想文ノートにはそれぞれの思いが綴られ、被災地で学んだこと、復興への思い、被災者への気遣いなど、数日間ではあるが大きく成長した姿がうかがえる。

### 難易度が増す活動

石巻を中心とした活動では、津波直後の4月はひたすら市内のヘドロとの闘いだった。5月から夏にかけては、牡鹿半島の漁村で漁具回収や入り江に押し寄せられたがれきの撤去にあたった。

5月に参加し、いま再び被災地を訪れた女子学生は「緊張感を維持することが難しい。被災地の環境に適応してしまうことに危機感を覚えた」と振り返る。また、3度目の参加となる学生は「雨になれば活動が中止になることもある」と記し、被災者を理解しようとしても「根底では違う」と、被災者との距離感に心を痛めている。

一方、秋以降は仮設住宅周辺での畠づくりや子供の遊び場づくり、そして正月を迎える前には神社仏閣の石段修復。時の経過とともに、学生ボランティアの活動への期待感からニーズの難易度も高くなっている。

その中で「被災者から勇気をもらった」「元気をもらった」という声も多い。ことわざの「情けは人の為ならず」にあるように、学生たちは被災地から多くのことを学びそれぞれの地に帰っている。

### 学生が漁師の希望に

元気をもらったのは学生だけではない。学生ボランティアと一緒に漁具回収を行った漁師が、遠く海を見つめ独り言のようにこう話してくれた。

「学生ボランティアが浜に来るまで、俺ら漁師は毎日毎日、海を見ては、ため息ばかりついていた。本当に力が出なかった。なんにもする気になれなかつた。たくさんのがれきを見るたび、ほんとになにから手を付けていいのかわからなかつた。学生ボランティアが浜にやってきて、津波で流された牡蠣殻やロープや網を、山に入つて一生懸命集めてくれた。その若い力を見ていて、立ち上がりなけれ



⑤海辺に散乱したがれきの撤去作業を行う  
学生ボランティアたち

⑥全身、泥だらけになり、ヘドロの搬出作業を行う



ばならないと思った。前を見て歩かなければならぬと思った。学生たちに引っ張られるように俺らも動き出したんだ」

「正直なところ、津波があってから、この世に神様なんかいないと思った。本当に神様がいたら、何にも悪いことしない浜の人たちを、こんなに苦しめることはしないと思ったからだ。でも今は、やっぱり神様はいるんだと思うようになった。俺らにとっての神様は、ボランティアのみんななんだよ」

この言葉には学生と被災者の距離を埋め、ボランティアが被災地で活動する大きな意義が集約されているのだろう。

### 次の災害に備える仲間

今回の地震では、兵庫・新潟といった過去に災害があつた地域、あるいは東海・東南海・南海の大地震が想定

される地域からのボランティアが比較的多い。もちろん、災害がないほうが良いのは当然のことではあるが、災害が起きるごとに行動をともにできる仲間が増えるのはありがたい。

ある日、こんな夢を見た。どこかの被災地で活動している自分の姿。ふと海に目をやると救援に駆けつけた漁船の群れ。その漁船になびく大漁旗には、石巻や牡鹿の文字が描かれている。大きく手を振る真っ黒に日焼けした漁師たちの顔。船にはたくさんの水と食料。寝る前に読んでいる愛読書『ONE PIECE』のような夢だった。

必ず災害はやってくる。次の災害に備え、船を操る頼もしい仲間が増えたのだ。

被災地の復興はようやく一步を踏み出したにすぎなく、ボランティアが担える役割はまだまだ山のようにある。これからも学生の若いパワーを十二分に發揮できるステージをつくり、被災地の復興を後押しできたらと思う。（黒澤司）

**東日本大震災 写真・動画コンクール 2012** 日本財団は、「2012年3月11日～あれから365日。あなたの目に映るものは～」と題した写真・動画コンクールを開催します。

東日本大震災の1周年に当たる2012年3月11日に撮影された写真と、その日を中心に撮影された10分以内のドキュメンタリー動画を募集します。震災を改めて見つめ直してもらうことが狙いです。募集は3月11日から開始。写真は4月11日、動画は4月20日まで。応募規定・方法などコンクールの詳細は、日本財団ホームページで確認を。

[www.nippon-foundation.or.jp/](http://www.nippon-foundation.or.jp/)

**Gakuvo**

被災地への新規派遣ボランティアも募集中。詳しくは、日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)まで。

[www.gakuvo.jp/](http://www.gakuvo.jp/)



**くろさわ・つかさ** 日本財団東日本大震災現地支援センター(宮城県石巻市)現地責任者。日本財団在籍中、阪神・淡路大震災など多くの被災地で災害ボランティアの支援活動を行いながら、そのネットワークづくりに力を注ぐ。2008年、中国四川大地震の救援活動を最後に、日本財団を退職、郷里宮城県に帰り林業に従事。東日本大震災後、支援活動の現地スタッフとして復職。震災当日から被災地に入り、現在に至る。

◇次回は4月2日に掲載します。